



5年 野間 麻里さん



『私のねこ』

※版画は初めてで細かいところはずむすかしかった。けれど、ほるの楽しかった。



2年 向後 麻弥さん



『にじいろのさかな』

※にじいろの魚が、銀のうろこを他の魚たちに分けてあげているところです。



『ゆずくん』



6年 伊橋 実容さん

※「ゆず」をモデルにキャラクターを考えました。かわいくできて、よかったです。



『たき火』



3年 齊藤智恵美さん

※防火の絵でたき火をしているところですね。水を用意すれば安心してできます。

あつまれ みんなの 力作



6年 市原 弘樹くん



『さめに乗ってサーフィン』

※サメに乗った男の子が海を渡っているところです。海と空の色をかえてみました。



4年 菅野 舞さん

※はねるところがとてむすかしかったです。名前はずまく書けました。

寺まい

ひかり俳壇



布施 和代 (二又)

献杯や面影語る浅き春
法事が済み故人の人柄に話しが咲く。今更ながら思慕を深める妻の心情が下五に投影された

鈴木とし子 (虫生)

みな遠き日の事なりし数椿
一生の間にはいろいろと想い出深い事柄がある。作者は数椿に寄せて回想の一時に浸る

山崎 てい (二又)

蝸りさらりと落し紅椿
些細な事にこだわることが間々あるが、作者は精華な朝の紅椿によって総べて氷解した

椎名 静子 (二又)

北病舎冬晴れの日のけけらなし
川島 重一 (尾垂)

ひと言の優しさ春を告げにけり
伊藤 幸枝 (尾垂)

ひっそりと午後の地に炎ゆ落椿
大木 素風 (二又)

合唱で竹馬会閉ず老の春
伊藤 雅子 (尾垂)

落椿 幼き頃の首飾り
短評 椎名しげる
評者吟 紅椿いつわり多きは世のならい